

## 山谷「きぼうのいえ」に感銘

四月にアンコール放送されたE.T.V特集「東京・山谷 最期を生きる」。生活保護受給者で身寄りのない老人の受け入れや無届け施設が問題となっている今、あらためてこの施設の意義を痛感した。

東京都台東区山谷の宿泊施設「きぼうのいえ」。入居者の多くは日本の高度成長

### からむコスト

を下支えしてきた労働者だが、彼らは今、生活保護を受け、認知症やがんなどを抱えている。死を目前にした男性は「人はこんなに優しいのか」と言って笑みを浮かべる。そして最期の時を迎えたとき、ベッドの脇で「長い間、苦労さま」と言葉をかけるスタッフ。その光景に涙が流れた。部屋は

個室で全二十一室。スタッフ十一人とボランティア。さらに週一回の医師訪問、時に牧師が心のケアに当たる。人々を支えるサーバーフェイネットとして注目されているが、それだけの価値は十分ある。すべては人々の善意あつてこそはいえ、生活保護費でなぜここまでのことが可能なか。そのあたりも知りたい。(知恵袋)